

1	ポートフォリオについて	資源の効率的な配分を考えた際に、次期中計においてどのようなポートフォリオを構想しているか。今まで以上に各ビジネスユニットで必要となる投下資本が増える中、ポートフォリオの入れ替えなど検討しているのか。	全体として電動化、システム化へと舵を切る中、そこに価値を見出せる事業には資源を集中させていく。どちらかという、新しい事業部門を創出するようなイメージでポートフォリオを構想している。
2	環境対策投資	NPVのグラフ(資料P9)にある「環境対策投資」について、規模と具体例を教えてください。	投資額はまだ精査中だが、太陽光パネルやそれに代わる発電装置、最新鋭の環境対策を施した工場建屋などが主な内容となる。
3	環境長期目標について	長期目標達成に向けた取り組み(資料P14)について、長期ビジョンや財務計画と連動したものだと思うが、背景を詳しく教えてください。	2030年に関しては、長期ビジョンにおいて社内で算定した数値目標に対しての計画を立てている。2050年については、例えば水素、アンモニアなど、今後実用化されていくであろう新しい技術を取り入れながら実現していくイメージ。
4	サプライヤーの環境目標設定	サプライヤーの環境目標設定の取り組みについて、削減目標の設定の仕方や、具体的にどのようなサポートが行われているのか、事例が知りたい。	セグメントに関わらず、取引額の大きいサプライヤー企業を中心に対応をお願いしていく。 当社が環境目標を設定するにあたって得たノウハウをシェアする形でサポートしている、具体的な取り組みとしては、例えば「省エネ診断をして、コンプレッサーを効率的に使う、エア漏れを抑える」などの過去当社が積み上げてきた経験をサプライヤー企業に展開したい。
5	TCFD	TCFDへの対応についてアップデートはあるか？	統合報告書やWEBサイトで開示している情報に対し、現時点でのアップデートはない。2019年度に企画、経理部門含めた分科会を設立し、物理リスク、移行リスクに対してシナリオ分析を行ったのち、現在は各事業部において詳細分析を行っている段階。
6	生産効率の向上について	生産効率向上(資料P15)について、年率3%のエネルギー効率アップは、現在の設備投資ベース(21年度であれば40億円程度)で実現していけるものなのか？更なる投資が必要になるのか。	生産効率向上とは、エネルギー効率の観点から設備の更新等を評価した項目となり、従来測定できていなかった部分を評価する新しい取り組み。 過去IRで開示している「生産性向上」投資は、一人当たりの付加価値を高める目的での投資が中心。生産性改善面での効果は、今回開示しているエネルギー効率の改善とは別で評価している。 基本的には、現在の投資ベースで実現できる範囲だと考えている。
7	電動化	電動化への取り組み(資料P17)について、各製品や顧客別に、どのような動きが、どのような時間軸で起こっているのか。機会やリスクをアプリケーション別に教えてください。	航空機、船用機器、商用車など、母機の電動化が進む中、当社の領域であるハードウェアおよびその周辺部分について、適応する製品を提供していきたいと考えている。 当社の成長という点に加えて、「電動化の実現」という社会的責任の面でも積極的に取り組みたい。
8	電動化	油圧機器事業の電動化について、将来どうなっていくと考えているか教えてください。	建設機械において油圧がすべて無くなるとは思わないが、小型の領域から電動化は進むだろうし、当社としては適応していきたいと考えている。 その流れの中で電動化の流れでモータ+減速機という意味で、武器となりうる精密減速機事業も含めて、各事業部で検討を図っているところ。